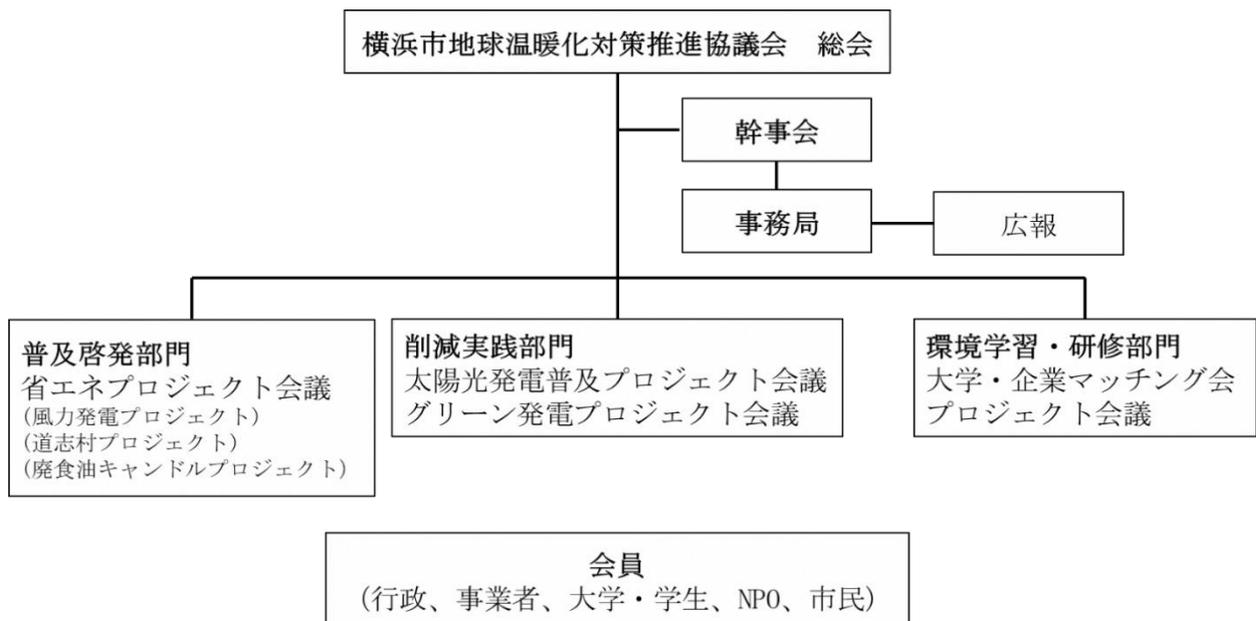


令和3年度事業計画(案)

1 令和3年度の組織構成・活動目的

■大学・事業者・NPO・個人が一体となった当協議会は、横浜市と連携して Zero Carbon Yokohama の実現に向けて、また、「横浜市再生可能エネルギー活用戦略」の推進に向けて、市内の家庭及び事業所、学校等における「節電・省エネ等の推進」及び「太陽光発電等再生可能エネルギーの普及促進」「低炭素電力への切り替え」等の実践者の拡大を目的とした活動を行う。また、環境学習の推進も含め、大学・高校等の学生と連携し、SDGs の視点を入れた取り組みを推進する。

その実現のために、会員事業者、NPO、個人、大学・学生との連携を強め、さらに区役所、自治会・町内会との連携に力を入れる。ヨコハマ・エコ・スクール（YES）事業、3R 夢事業等とも連携する。



2 広 報

実施主体：事務局

目 的	急激に変化する気候危機、Zero Carbon Yokohama の取組等の情報を広く市民、事業者の皆様へ提供し、Zero Carbon Yokohama 推進の具体的取組を促す。
内 容	① ホームページ、協議会 Facebook、Youtube チャンネル等による情報発信 ② 横浜市及び会員からの情報提供の共有 ③ 協議会パンフレットの作成、配布
期 間	通年
予 算	200 千円

3 市との協定事業

Zero Carbon Yokohama の実現にむけて、「節電・省エネの推進」、「太陽光発電等再生可能エネルギーの普及・促進」「低炭素電力への切り替え」を広く呼びかけて取り組みを促す。

また、大学・高校・一般等の授業や講座等とも連携し、Zero Carbon Yokohamaに関する環境教育を実施する。

その実践に向けて、プロジェクト会議を中心に、会員（事業者、団体、個人）、区役所、YES事業等と連携する。

<令和3年度重点テーマ>

- ① 徹底した省エネ(LED照明、省エネ家電、ZEH等)の普及
- ② 太陽光発電等再生可能エネルギーの普及・促進
- ③ 低炭素電力の選択推進
- ④ 横浜カーボンオフセットプロジェクトの推進

(1) 普及啓発部門

1) 区民まつり等のイベントや学習会、WEB等を通じた重点テーマの普及啓発

実施主体：省エネプロジェクト会議、事務局

(イベント等プロジェクト) (廃食油キャンドルプロジェクト)

(風力発電プロジェクト) (道志村プロジェクト) (環境関心希薄層への啓発プロジェクト)

目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所等が開催する環境イベント等において、令和3年度重点テーマの普及を実施し、Zero Carbon Yokohamaの実践者を増やす。 ・Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」、YouTube、Twitterの参加者、会員、広く市民に呼びかけて、テーマ別学習会、セミナー、事例報告会等開催し、横浜発の提案・宣言をまとめ発表する。 ・横浜市内大学、高校、区役所、自治会、団体等と連携し、Zero Carbon Yokohama、SDGsの実践に向けた授業・学習に対して、講師派遣等を実施する。 ・取組視点にSDGsを入れる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> ① 区民まつり等のイベントで令和3年度重点テーマの普及 ② 会員・Facebook参加の団体・企業・大学・学生・自治会・区役所・チームZERO YOUTH横浜等の関係者と連携してZero Carbon Yokohamaへの取り組みを普及 ③ テーマ別学習会・セミナー・事例報告会の開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・バックキャストで2050年の世界を描く・省エネの普及 ・太陽光発電の普及—zero carbon推進及び災害対策 ・低炭素電力への転換 ④ ②③をface book, YouTube, Twitterへアップする ⑤大学・高校・一般に向けて、Zero Carbon Yokohamaに取り組む横浜市、会員企業、大学、市民団体等を講師として派遣し、授業や学習会で講座を実施する。講師派遣はオンラインを主とし、状況に応じて現地に派遣する。また、講師一覧表を作成し、関係機関に配布する。
推進体制	<ol style="list-style-type: none"> ①省エネプロジェクト会議中心に運営 ②～⑤関係者と連携して事務局が運営
場 所	<ol style="list-style-type: none"> ①各区の区民まつり等のイベント会場（オンライン含む） ②④Facebook「ゼロカーボン横浜チームゼロ」、YouTube、Twitter等 ③対面またはWEB ⑤大学・高校・区役所、自治会・町内会、各種団体等
対 象	<ol style="list-style-type: none"> ① 区民まつり等来場者、参加者

	② Facebook チームゼロ参加者、Facebook ページ閲覧者、一般市民 ③ 学習会、事例報告会参加者 ④ WEB 閲覧者 ⑤ 大学、高校、区役所、企業・自治会・町内会等
期 間	令和3年7月～令和4年1月 ① 15回程度 ②～④ 15回程度 ⑤ 市内大学・高校等で講座開催，30か所に配布
⑤の募集方法	大学、高校、区の広報、インターネット、区役所、NPO、自治会・町内会へのPR等
予 算	410千円
協力団体等	区役所、自治会・町内会、地域の活動団体、事業者等、チームゼロ参加者、横浜市、大学、企業、NPO、横浜温暖化防止活動推進員会議

2) 風力発電とエネルギー関連施設等の見学会の開催

実施主体：風力発電プロジェクト

目 的	風力発電とエネルギー関連施設等を見学し、エネルギーの現状を理解してもらうとともに、その場を活用して省エネ・再エネ講座を実施し、令和3年度重点テーマのPR実施等による二酸化炭素削減の実践者を増やす。 なお、新型コロナウイルス感染症の状況及び横浜市環境創造局等の指導に基づき、規模や時期等を変更する。
内 容	① 風力発電所「ハマウイング」とエネルギー関連施設等の見学会を実施する。 ② 省エネ・再エネ講座を実施し、省エネ・太陽光発電の普及、低炭素電力の普及を促進する。また、SDGsについての学習も実施する。 ③ 横浜カーボンオフセットプロジェクト等を実施する。
推進体制	風力発電プロジェクト会議を中心に運営し、事務局が補佐する。
場 所	風力発電所とエネルギー関連施設等
対 象	横浜市民
期 間	令和3年11月（予定）
予 算	139千円
募集方法	市の広報、HP、Facebook などにより募集
協力団体等	横浜市環境創造局、エネルギー関連施設等

3) 道志村「横浜市民の水源地間伐体験・水源地散策」

実施主体:道志村プロジェクト

目的	横浜市民の水源地である道志村の水源地林を、横浜市水道局と連携して、一般市民・親子の間伐体験や水源地の見学等を実施する。事業を通じ水源地としての山林の大事さ、山林の果たす地球温暖化防止の役割等について学ぶ。
内容	① 道志村バス見学会を実施する。親子の参加も呼び掛ける。 ② 現地にて水道局の協力を得て、間伐体験・横浜市民の水源地の見学・学習会を開催する。 ③ そのほかレクリエーションを実施する。
場所	山梨県道志村
対象	横浜市民・親子
期間	令和3年10月
予算	208千円（協定事業費 100千円 協議会事業費 108千円）
募集方法	市の広報等
協力団体等	横浜市水道局等

4) 環境関心希薄層への啓発

目的	従来実施してきた温暖化防止啓発セミナーやイベント等にあまり関心を寄せてこなかったような環境関心希薄層を対象として、セミナーやイベント参加者のすそ野を広げ、脱炭素社会の実現に向けた具体的な行動をとってもらえるようなきっかけづくりとすることによって、ゼロカーボンの達成に資する。
内容	親子や一般市民の関心を引きそうなキャラクターを以下のような方法にて SNS で活用する。 ①2019年度マッチング事業実現化の一環として、フェリス女学院大学チームが横浜市に提案して作成した温暖化防止啓発パンフレットに登場した「ゼロカーボン子」というキャラクターに、パンフレット中身の省エネ方法等を中心に Twitter で語る、という体裁で発信する。 ②「ゼロカーボン子」のパートナーとして、ゼロカーボン横浜のキャラクターを横浜市民から募集。2人のキャラクターのかけあいによる啓発動画を作成し、YouTube 等で配信する。
推進体制	関係者と連携して事務局が運営する。
場所	Twitter、YouTube
対象	市内環境関心希薄層
期間	令和3年7月～令和4年1月
予算	155千円
募集方法	市広報、Facebook、Twitter、YouTube、協議会 HP などによりキャラクター募集
協力団体等	横浜市、フェリス女学院大学、協議会会員の大学

(2) 削減実践部門

1) 太陽光発電の普及

実施主体：太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト会議

事務局補佐

目的	Zero Carbon Yokohama の実現、「横浜市再生可能エネルギー活用戦略」の推進に向けて、昨年度発足した「太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト会議」によって太陽光発電の普及促進を図る。 横浜市の推進する様々な取組との連携、他組織との連携、具体的削減数値測定等を目指す。事業の実施はSDGsの視点を持った取組とする。
内容	1 横浜市との協定事業 ① 会員事業者、幹事、横浜市等が連携し「太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト会議」の運営と参加事業者の拡大を図る。 ② 区役所、市内企業、福祉施設、大学、自治会館、個人、市の関連組織、イベント等の多方面にチラシを配布する。また、必要に応じて追加印刷を実施する ③ 様々な団体・組織と連携して学習会・見学会を実施する ④ 設置場所に配布するシール、感謝状等を作成する。 ⑤ 名刺等に使えるロゴ等を作成する。学生等に作成を呼び掛ける。 ⑥ 設備の設置による具体的削減数値を把握する。 2 協議会自主事業 ① 必要に応じてチラシの追加印刷を実施する。 ② face book と連携した太陽光発電プロジェクトページの作成・運営をする。 ③ 本プロジェクト会議に参画している会員事業者と契約して太陽光発電設備等を購入した市民(個人住宅)に対しては、契約した会員事業者の負担により、商品券(1件あたり8000円、初期投資0円設置の場合3,000円)を贈呈する。
推進体制	太陽光発電普及キャンペーンプロジェクト会議を中心に実施し、事務・運営等を事務局が担う。
場所	市内全域
対象	企業、大学、福祉施設、集合住宅、自治会・町内会、個人住宅等
期間	令和3年7月～令和4年1月
予算	699千円(協定事業費299千円 協議会事業費400千円)
協力団体等	団体、区役所、銀行等、自治会・町内会、大学等

(3) 環境学習・研修部門

1) 企業等×学生の環境課題解決マッチング会

実施主体：企業等×学生の環境課題解決マッチング会プロジェクト会議，事務局補佐

目的	市内の大学、会員企業等が連携して、企業が提案する事業課題について、大学生が現場等の体験やヒアリングを行い、解決策を提案する。
内容	令和3年度マッチング会の実施は12月、オンラインや対面式等の形態を検討し開催する。また、チームZERO YOUTH 横浜と連携し実施する。 ① 企業の課題募集は会員企業等に呼びかけることとし、8月までに書面にて参加確認する。 ② ①において課題が集まらない場合は、会員企業以外にも呼び掛ける。 ③ 大学生の募集—各幹事大学 9月 ④ 大学生が企業等のヒアリングを実施する(状況により訪問) 10月

	⑤ 提案書の作成	11月
	⑥ マッチング会の開催	12月
	⑦ 参加大学・学生と企業に対して実現可能性についてアンケート実施	1月
推進体制	プロジェクト会議を中心に運営し、事務局が補佐する。	
場 所	開催方法等要検討	
対 象	大学・学生・事業者・行政等	
期 間	令和3年7月～令和4年1月	
予 算	258千円(協定事業費 196千円 協議会事業費 62 千円)	
募集方法	大学・主に会員企業等への呼びかけ	
協力団体等	大学、企業、団体等、チームZERO YOUTH横浜	